

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告書

脳死肝移植待機リストにおける HIV/HCV 重複感染患者の現状

研究分担者 玄田拓哉
 順天堂大学医学部附属静岡病院消化器内科 前任准教授

研究要旨: 2017年3月までに脳死肝移植待機リストに登録された HIV/HCV 重複感染レシピエント候補は 12 例であり、HCV 感染レシピエント候補全体の 2.6% を占めていた。重複感染者の医学的緊急性配点ランクアップが行われた 2012 年以前は、重複感染者に対する脳死肝移植施行例はなく、4 例が待機死亡していた。しかし、重複感染患者に対する医学的緊急性配点ランクアップが行われた後は、3 例に対して脳死肝移植が施行され、待機死亡した患者は 1 例のみであった。

共同研究者
 市田隆文 湘南東部総合病院 病院長

例に脳死肝移植が行われ、待機死亡例は 1 例のみにとどまっていた。

A. 研究目的

脳死肝移植レシピエント候補として登録された HIV/HCV 重複感染患者の待機状況を検討した。

B. 研究方法

2007 年 3 月以降に日本脳死肝移植適応評価委員会において評価を受け、臓器移植ネットワークに脳死肝移植レシピエント候補として登録された待機患者を対象とした。日本脳死肝移植適応評価委員会事務局データベースに登録された適応評価時の臨床情報、検査成績と日本臓器移植ネットワークに登録された転帰を用いて検討を行った。

C. 研究結果

2007 年 3 月から 2017 年 3 月までにのべ 2686 例（新規申請 1980 例、再申請 706 例）が適応評価を受け脳死肝移植待機リストに登録された。新規申請患者のうち 18 歳以上の成人例は 1763 例であり、このうち C 型肝硬変患者は 388 例で 22% を占めていた。HIV/HCV 重複感染患者は 12 例で、成人例の 0.6%、C 型肝硬変患者の 2.6% を占め、全例が血友病を合併していた。HIV/HCV 重複感染患者の脳死肝移植待機リスト登録時の医学的緊急性の配点は 3 点、6 点、8 点、9 もしくは 10 点が、それぞれ 3 例、5 例、2 例、2 例であった。重複感染患者の医学的緊急性配点ランクアップが施行される 2012 年以前は、重複感染患者 4 例が待機死亡し、脳死肝移植施行例は 0 例であった。しかし、重複感染患者の医学的緊急性配点ランクアップが認められた 2012 年以降は、重複感染患者 3

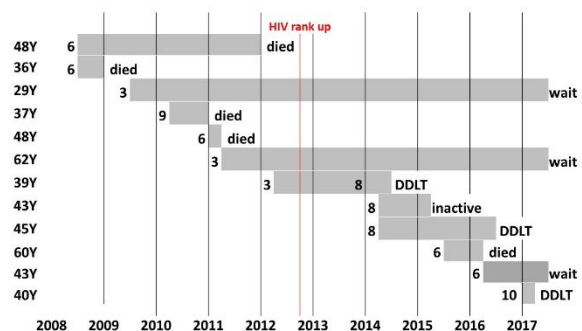
D. 考 察

HIV/HCV 重複感染者の HCV 単独感染者と比較して急速な肝病態悪化に起因する高い待機死亡リスクを軽減するために、重複感染者に対して 2012 年から医学的緊急性配点のランクアップが認められた。今回の検討では脳死肝移植の実臨床現場において、HIV/HCV 重複感染者に対する脳死肝移植実施例の増加と待機死亡例の減少が確認され、重複感染者に対する医学的緊急性ランクアップの臨床的な効果が確認し得た。

E. 結 論

HIV/HCV 重複感染患者に対する医学的緊急性配点変更により脳死肝移植施行例が増加し、待機死亡例は減少している。

図 1 HIV/HCV 重複感染患者の脳死肝移植待機リスト登録後の経過



F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表

- 1) 玄田拓哉、市田隆文、永原章仁. 末期肝臓病としての原発性胆汁性胆管炎と原発性硬化性胆管炎の病態. 第42回日本肝臓学会西部会. 2017年11月30日, 福岡.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし